

【永平寺町】 校務DX計画

1. 趣旨

永平寺町では、GIGAスクール構想に基づき、令和2年度からICT環境の整備を進めてきました。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められています。これらの課題を解決するため、永平寺町では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取組を進めることとします。

2. 永平寺町における課題と今後の取り組みについて

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト」に基づく自己点検結果(文部科学省 令和5年11月実施)を踏まえ、永平寺町における次の課題を明確にしました。これらの課題解決に向けて、各学校と連携を強化しながら、校務DXの推進を図る必要があります。

(1) GIGA環境・汎用クラウドツールの一層の活用

校務DXチェックリストの結果によれば、多くの学校で児童生徒の欠席連絡やアンケート、また職員会議等にクラウドサービスが積極的に活用されています。しかし一方で、タブレット端末の持ち帰り学習やデジタルドリル教材の導入は十分に進んでいない状況です。今後は町で全校にデジタルドリル教材やデジタル新聞を導入するなど、町全体のクラウドツール活用のレベルアップを図り、よりきめ細やかな学習指導の実現や児童生徒の学力向上を目指していきます。

(2) 教育情報セキュリティポリシーの必要性

本町では、教育情報セキュリティポリシーについては、町が定める情報セキュリティポリシーに準拠しており、教育現場の現状に即したものとなっていない状況にあります。今後は、国の方向性や現状を的確に把握し、クラウド上のデータやサービスの活用を前提とした新たな教育情報セキュリティポリシーの策定が求められます。児童生徒の存在や情報の多様性・多目的性を十分考慮するとともに、教育現場の実情に合った現実的で実効性のある教育情報セキュリティポリシーの整備を進めます。

(3) FAXの原則廃止、押印の見直し

校務DXチェックリストと学校への聞き取りによれば、現在町内全ての学校において給食材料や学習教材の発注業務等にFAXを利用しています。また、学校と保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類も残っています。今後は校務の効率化やペーパレス化推進のため、令和6年8月9日付け文部科学省事務連絡「学

校等の FAX でのやり取りの慣行・学校現場に関連する押印ルールの見直しについて」を参考に、制度や慣行の見直しを行います。

(4) 次世代型校務支援システムの導入

本町では、現時点で校務支援システムを導入していません。そのため、児童生徒の出欠情報や成績管理等の事務作業が教員の大きな負担となっているほか、教員間のスムーズな情報共有が困難な状況にあります。今後、教員の負担軽減やコミュニケーションの迅速化だけでなく、「GIGA スクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議」の提言にあるゼロトラストの考えに基づき、校務系・学習系ネットワークの統合やクラウドベースでの校務の実施等を視野に入れ、次世代校務支援システムの導入を検討します。